宮浦 大量配転の攻撃

148人（採重・払採炭）を掘進へ

合理化のシワヨセだ

「明日はわが身」と強い反対

ついこの間シールド自走枠の導入を強行した宮浦鉱で、こんどは大量の労働者の配転が会社側から提起され、職場から「合理化のシワヨセ、職名などの変更を口実とする賃下げ絶対反対」の強い声が湧きあがっている。

宮浦指導部も、このように怒りが広がってゆく職場と一つになって、「今日は人の身、明日はわが身。新労組員も三池労組員ものがれようはない。闘いに立ちあがろう」と、ビラなどをもって呼びかけている。

提案の内容

とりあえず、会社提案は次の通りである。

一、近く終掘を迎える小切羽の採重三交替者七十一人（うち三池労組員が十九人）は、五月末を期して〝掘進工〟に職名変更し配転する。

二、単層払い（一方相当数の労働者をシールド自走枠に配転したあと、残った者が二方で払採炭を行っている）の払採炭工七十七人（うち四十一人が三池労組員）を、七月頃までに掘進工として配転する。

合計すると百四十八人の配転となるが、もともと三井三池はいま「五千人・二万トン体制」（一日の出炭目標）を不抜の生産基礎にすえ、そのために見境なしに機械化をすすめ、労働者を思うままに配転し、労働強化、人減らしを行ない、機械に従属させてこき使っている。

会社のこのような労働者無視の出炭計画こそが、いっそう坑内保安を危険状態に押しやることになり、依然として打ち続く災害となっているのである。

四山から始る

三井三池は、昨年の四山鉱について、今年ついに宮浦鉱にシールド自走枠を導入した。ひき続き同自走枠を、今年九月からは三川鉱に導入する計画で、やがて三池炭鉱の採炭部門では全面的にこのシールド自走枠の展開となるに相違ない。

とすれば、こんど宮浦鉱が申し入れてきた労働者の大量配転は、これまた今鉱に具体化してくることは明らかで、それだけ重大問題をはらんでいるということができる。ましてこの種配転に伴って押しつけられる職名変更は、多くの場合が賃下げとなることは必至で、それでなくてさえ非情に低い低賃金をいっそう低くし、かろうじてささえてきた生活を圧迫し、中には破壊にみちびくおそれさえでてこずにはいない。

出炭の大型化

「五千人・二万トン体制」を生産指標に、三井三池がいますすめている、シールド自走枠を軸とした大型出炭体制の強化は、坑内保安にとっても労働者の生活にとっても恐るべき結果を生みかねないものと見られており、新労組員であると三池労組員であるとを問わず、一つになって抵抗闘争を強めていかなければならない。まさに「今日は人の身、明日はわが身」であるから。

労働者をただ生産だけに狩りたてる社内報

中央委、活動方針など確立

命を守る闘い強める

CO闘争 ハンストで闘う

きたる六日開催の定期総会に備え、三池労組は去る三十日荒尾労働会館で中央委員会を開催、執行部提案の〝新年度における活動方針〟案を承認するとともに、いよいよ重大なヤマ場を迎えたCO・遺族闘争で、大挙五十人がハンストに突入するなど最大限の実力を行使して闘う覚悟を固めた。

中央委員会はまず「炭労の賃上げ闘争」の妥結に至るまでの経過を確認、七〇年度の決算・会計監査報告を確認、「一九七一年度活動方針」「機構改革」「新年度の予算」「選挙規程の改正」などを決定、ヤマ場に当面したCO・遺族闘争、および目前に迫った参議院議員選挙を力強く闘うことを決定した。

一九七一年度活動方針

なかでも新年度の活動方針は、「昨年の行動方針の中で七〇年代の基本路線を確立した当時の情勢と、基本的に大きな変化は認められず、したがって本年度は昨年の行動方針を踏襲しつつ、若干活動面の補強追加」を行なうものとされていながらも、情勢は一層「主体性の強化」と「階級的力量を高め」ることを求めており、前進と発展のための闘いの目標を、次の通り掲げている。

一、生命と権利を守る闘い（昨年度にひき続き中心的目標とする）

二、生産点における権利を守り、労働条件を高める闘い（五千人・二万トン体制との対決）

三、反戦平和の闘い（ベトナムの反戦、沖縄即時無条件返還、軍事基地反対、第四次防反対、憲法改悪反対など）

四、大衆闘争路線の確立（統一指導性の強化、分会独自の機能昂揚、組長会議などの定例化）

五、思想性を高めるための学習活動、教宣活動の積極化

もちろん活動方針の詳細は省略するが、この日質疑や意見が集中した問題は公害闘争、教宣活動、統一強化、労務政策のとらえ方、CO・遺族闘争と守る会運動などだった。中でも本所指導部の樺島委員の次の発言要旨は、重要な問題を提起している。

「われわれは一年間闘ってきた族闘争、および目前に迫った参議院議員選挙を力強く闘うことを決定した。

CO遺族闘争について

さらに重要な問題として、一つのヤマ場を迎えたCO・遺族闘争については、七級認定を中心とするすべてのCO・遺族の要求を貫徹するために、いま続けている三川鉱正門前での座りこみに加え、近く大挙五十人のハンストをもって闘いを強化する方針が確立したが、闘いをそのうえ力強いものにするためには「各職場での抵抗闘争を強化して、各部課長を通じて三井鉱山に対する強い抗議行動をまき起こす」覚悟が固まった。

なお、活動方針は六日に開催する定期総会によって最終的に確立することになる。

推せん候補の経歴

参議院選挙 全国区一、地方区二

きたる第九回参議院議員選挙における、三池労組推せんの各候補の略歴はほぼ次の通りである。

山本忠義候補（全国区）

現住所　東京都三鷹市深大寺
現職　炭労委員長、社会党政策審議会委員、石炭鉱業審議会委員
党歴　昭和三十一年九月、日本社会党入党、支部執行委員・書記長・支部長歴任
学歴　昭和十二年三月、樺太豊原尋常高等小学校卒
役歴　昭和二十四年四月、三菱大夕張炭鉱労組上部組織代議員
同　二十五年四月、三菱炭鉱労組北海道連合会事務局長
同　二十六年四月、三菱大夕張炭鉱労組組織部長
同　二十七年五月、三菱大夕張労組副組合長
同　三十一年五月、三菱大夕張労組組合長
同　三十五年七月、炭労北海道地方本部執行委員長
同　四十年九月、炭労委員長
同　四十一年、総評副議長
（なお年令は四十八才）

小野　明候補（福岡区）

略歴
現住所　北九州市門司区天里
昭和十五年、小倉師範卒、同二十六年まで小中学校で教鞭をとる。
同　二十六年、福岡県教組門司支部長（二期）就任以来本部執行委員長（三期）、福岡県評議長（七期）を歴任。
勤評・三池闘争などの指導にあたる。
同　四十年、参議院議員（地方区）に当選以来、労働運動の経験を生かして文教、石炭対策特別委理事、参議院運営委、決算委、社労委を歴任、さらに外務委、公害対策特別委理事をつとめ、カネミ油症事件などで活動
同　三十七年、英政府招へいによる外遊以来、中国、ソビエトなど歴訪、友好を深める。
著書に「父母と教師に訴える」がある。
（なお年令は五十一才）

森中守義候補（熊本区）

現住所　熊本市清水町高平
組合歴　熊本県評議長、産別会議常任理事、全逓中央執行委員、全逓熊本県本部委員長、同熊本郵政支部長、同非現業協議会幹事。
選挙歴
昭和三十一年、参議院議員地方区立候補、当選。
同　四十年、参議院議員地方区立候補、当選。
党歴　社会党本部統制委員、政策審議会通信部会長、沖縄対策特制委副委員長、水俣病対策特別委事務局長、政策農村水産部会副会長、同運輸部会副会長、通信国会議員団幹事長、党熊本県本部委員長、同顧問。
国会歴　オリンピック準備促進特別委員長、通信常任委員長、通信委員、農林水産委員、運輸委員、予算委員、決算委員、内閣委員、離島振興審議会委員、台風常襲地帯審議会委員。
海外派遣歴　米・英等十四ケ国視察、東南アジア視察、沖縄調査
現在　議院運営委員など、数多の役職で活動している。

また重ねる裏切り

新労幹部　平和協定延長めざす

三池新労組幹部は、組織分裂以来裏切り行為を積み重ねてきているが、また平和協定の延長をたくらんで、新労組員に対するゴマカシの教宣活動をはじめている。

あの大爆発の直前に会社と締結したこの協定には、今では新労組内部からさえ「スト権を売り渡すなどの裏切りはやめろ」との声があがっているが、同幹部らによれば「会社の誠意を信じて」（大衆討議資料から）とのことである。